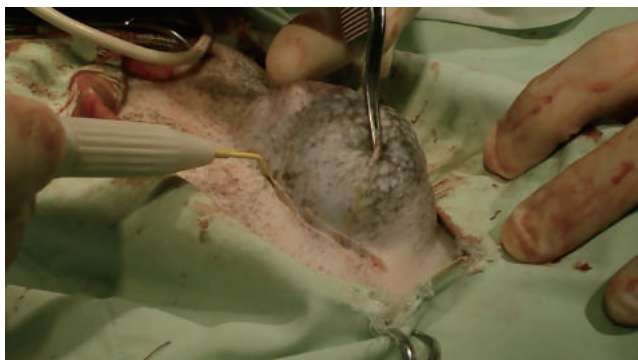


各部位における腫瘍切除

● 乳腺腫瘍の切除



(図3-1)



(図3-2)



(図3-3)

症例解説：

犬の乳腺腫瘍の約半数が悪性であるので、根治するためには、外科療法（外科手術で乳腺を切除する）が第一選択になる。その他に、放射線療法やホルモン療法などもあるが、あまり期待できない。外科療法では、片側の乳腺を全て取るので腫瘍の取り残しが少なくなる。デメリットは手術侵襲が多くなる事で、使用する医療機器や術者の手技でカバーする必要がある。乳腺腫瘍では止血目的で電気メスやレーザーが使われるが、熱の侵襲により術後の疼痛が激しかったり、患部の癒合が遅かったりする。サージトロンでは最小限の熱で操作できるので、術者の手技次第で低侵襲で止血することが可能である。

治療の流れ：

イソジンで患部およびその周辺部の皮膚を消毒する。乳腺腫瘍の状況に応じて手術範囲を決定する。切除範囲を広めに設定する。エンパイアニードルを用いCUTモードで皮膚を切開する。(図3-1) このとき針先を垂直に立て、先端のった部分だけ皮膚に当てて、軽くなぞるように浅く切開する。血流のある皮下組織はBLENDモードで通電部の側面を用いて、止血しながら切開を進めていく。(図3-2) 犬の乳腺尾側端は陰部手前まで伸びているので、できる限り切除する。第5乳腺は外陰部浅腹壁動静脈を結んで切断すると鼠径リンパ節も切除される。切除中に出血した場合はバイポーラフォーセップにて部分的に止血する。(図3-3) 縫合においてはテンションが強いと皮下出血を生じやすい。皮膚縫合部に段差があると痂皮ができて治癒が遅れ、皮膚が薄いと皮下結紮部が埋まらず治癒が遅れることもある。皮下を縫合する際、真皮断端を同じ深さで拾いながら連続縫合（皮内縫合）することで、これらの問題は細小にできる。術後は、エリザベスカラーを使用し、腹部はネット等で覆って自己損傷を防ぎ、問題がなければ翌日退院できる。



YouTube 動画閲覧

「6. 切開用電極による乳腺腫瘍切除(獣医科)」で検索

エンパイアニードル電極

シャフトの長さ：20mm

電極外径：0.6mm



EE305

【出力モードと出力】

CUT：15～25

BLEND：20～30

COAG：20～30

Q&A

Q サージトロンはスプレー凝固ができないので、スプレー凝固ができる機種どちらにするか迷っています。機種選定の指標があれば教えてください。

A スプレー凝固を選択する必要はありません。